



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業



2021年度

子ども・地域よりあい広場

「わっこの家」



「わっコイン」がつなぐ地域の共助のわづくり
事業活動報告書





はじめに

もりおかユースポートで実施するすべての事業に関わるみなさま、ご支援をくださるみなさま、ユースポートが提供するサービスをご利用いただいているみなさまに、日頃より法人事業への多大なご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

平成31年4月より独立行政法人福祉医療機構様の「社会福祉振興助成事業」に採択をいただいて実施した「多世代交流の居場所と地域で支えるたすけあい」事業を引き継ぎ、令和2年度は「地域の居場所と地域コインを活用した地域の『わ』づくり」事業、そして令和3年度は「わっコインがつなぐ地域の共助のわづくり」事業として実施する運びとなりました。

本事業は平成29年2月より運営しておりました「子ども地域よりあい広場わっこの家」を拠点に事業内容を拡充し、子どもたちの育ちも含めた地域の課題を地域の力で支えていくことをサポートする目的で内容を発展させて参りました。昨年から続くコロナ過の中、本事業がつつがなく運営できたのは、みなさまからのご支援、ご協力の賜物と、スタッフ一同心より感謝申し上げます。

本冊子は令和3年度に実施した「わっコインがつなぐ地域の共助の輪づくり」事業の活動報告です。ぜひ、ご拝読賜れましたら幸いです。

特定非営利活動法人もりおかユースポート 理事長 加藤 源広



目次

1. はじめに	2ページ
2. 背景と目的	4・5ページ
3. 事業内容と実績	6ページ
① わっこ広場(居場所)	6ページ
② わっこ食堂(子ども食堂)	8ページ
③ 地域たすけあい事業	10ページ
④ 地域の相談支援	10ページ
⑤ ボランティア養成	11ページ
⑥ わっこ冷蔵庫	12ページ
4. 実績のふり返し	13ページ
5. アンケート結果	14ページ
6. 今後の展望	16ページ
7. サポーター募集	17ページ
8. もりおかユースポート紹介	18ページ



子ども地域よりあい広場「わっこの家」の内観

背景と目的

少子高齢社会が定着し、単独世帯・核家族世帯が全世帯数の8割を超えてからすでに20年が経過する中で、高齢化世帯・独居高齢者世帯が年々増え続け、ひとり親家庭や地域に地縁、血縁のない家庭が増加しています。

人々の生活環境も変化し、夜間まで営業するスーパーやコンビニが増え、困った時もそこに足を運べば不足がなかったり、かつては地域で協力しあっていた冠婚葬祭などの行事も、企業が代替して行うようになりました。働き方も変化し、企業に勤める人が増え、地域の中で働き稼ぐ人が減ると、地域の人たち同士で交流する機会が減り、人々のつながりがどんどん希薄になっていきます。

そのような環境の中で、子どもが家庭で孤立しているケースや、高齢者や困窮者の孤独死、高齢者世帯から中年以上のひきこもりが発見される8050問題など、社会のつながりが薄い「社会的困窮（関係性の困窮）」を原因とする社会課題が増え、新たな問題となっています。



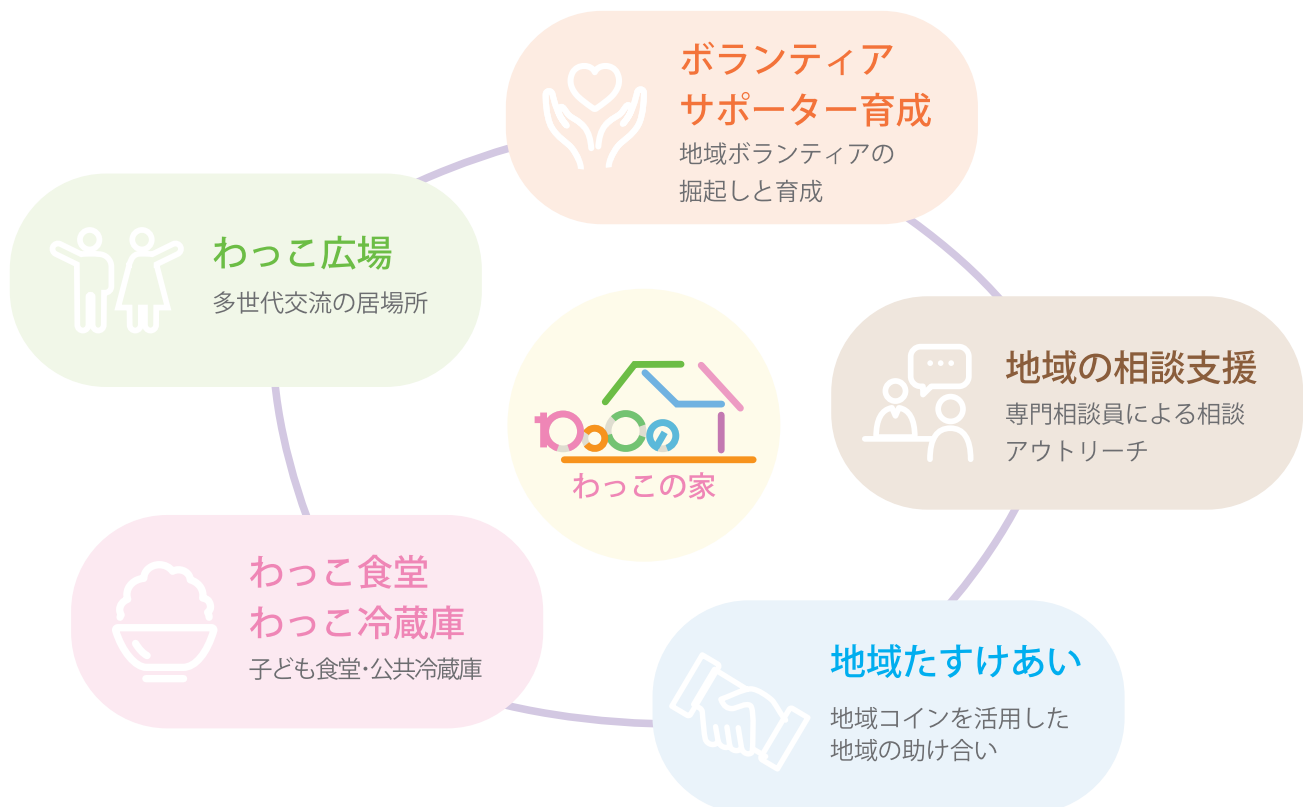
子ども地域よりあい広場「わっこの家」外観

活動の目的

これらの「社会的困窮（関係性の困窮）」がもたらす課題は、社会環境や、経済状況、就労や福祉、教育、子育てなどさまざまな要因が相互に複雑に絡み合った課題が多く、しかも公的に提供されている行政サービスや社会福祉サービスの隙間にあるものや、複数の分野にまたがっているものが多く、現状存在する社会資源では対処が難しいものとなっています。

この事業は、誰でも利用できる地域の居場所「わっこ広場」や子ども・地域食堂「わっこ食堂」、食糧支援のコミュニティーフリッジ（公共冷蔵庫）「わっこ冷蔵庫」という活動を中心に、地域の相談場所、生活支援活動等を通じ、参加する人たちの思いやりをつなぐ「わっこコイン（おかげさまコイン）」というアイテムを介して助け合いの循環を構築することで、こうした課題を抱える対象者を地域に再包摂し、それぞれが抱える課題、問題を地域で解決し支える仕組みを、地域の方と一緒に構築し、誰もが住みよく暮らしやすい地域づくりに貢献することを目指して取り組んでいます。

■ 子ども地域よりあい広場「わっこの家」の取り組み （取り組みの五つの柱）



事業の内容と実績

■ わっこ広場（多世代交流の居場所）



わっこの家 居場所の様子

事業実績	実施回数	参加者数
居場所	238 日	935 人
学習支援	64 回	111 人
茶話会 工作会	46 回	119 人



わっこの家 学習支援の様子

■ わっこ広場(多世代交流の居場所)

子どもから大人まで多世代が交流できるみんなの居場所

開所時間

毎週火～金曜日13:00～18:00

実施内容

- ・小学生の放課後の居場所を中心とした多世代対象の居場所の開設。
- ・中高学生(不登校生徒等)の学習の場と居場所開所。
- ・引きこもり当事者のための居場所や交流会の開催。家族会の開催。
- ・高齢者や被災者等を対象とした茶話会、サロンの開催。
- ・小学生等の学習支援の実施。

事業の内容と実績

事業実績

・ 居場所

全体で238回開所し、935人の参加者があった。近隣の小学校・中学校で新型コロナウイルス感染症の集団感染が発生したため、8月～9月と1月～2月の計7週間にわたって居場所を開けず、実施回数、参加者ともに昨年実績を下回る結果となった。

不登校の中学生も家以外の居場所として活用していた。

・ 交流会など

ひきこもり当事者の交流会を毎月2回、計22回開催し、62人の参加があり、利用者同士やスタッフ、ボランティアとの交流を通じて社会参加の準備を行った。

ひきこもりの家族会は毎月2回実施し、合計58家族が参加した。家族同士での共感や情報交換、支援員のアドバイスを得て、課題解決に向けたアプローチを学ぶ機会となった。

・ 学習支援

小学生の居場所の利用者を中心に計64回、延べ111人に学習支援を行った。こちらも居



茶話会で作成したデコパージュの写真立て

場所と同様に実績が減少した。

・ 茶話会・工作会

わっこの家の近隣にある災害公営住宅内の活動スペース(森のテラス)をお借りして2回実施した。災害公営住宅にお住まいの方や地域の方に参加いただき、コースターや写真立てをつくりながら会話に花を咲かせた。

居場所に通うニートの若者が講師の補助で参加するなど社会参加の機会にもなった。

子ども対象のわっ工作は44回実施、109人の参加があった。子どもたちは積極的にお手伝いに参加し、手に入れたわっコインを使って様々な工作にチャレンジしていた。



災害公営住宅の活動スペースでの茶話会(コースターづくり)の様子

わっこの家 茶話会 vol.1

棒針編みでコースターづくり

12月1日(水) 13:30～15:00

会場	南青山アパート内 森のテラス (港区南青山2-1)	棒針編みで小さなコースターを作ります。編み物をしながらおしゃべりしたりお菓子を食べたり楽しい時間を過ごしましょう。どなたでもお気軽にご参加ください。
参加費	無料	※希望の方はわっこの家までお問合せください。
対象	地域住民の方どなたでも	
持ち物	なし	
定員	5名程度	

◆お茶・お菓子など、提供対象をしております。
◆新型コロナウイルスの感染拡大状況により、開催中止となる場合があります。予めご了承ください。

お問い合わせ先: わっこの家 青山 (特定非営利活動法人もりおかユースポート)
東京都港区山王三丁目29-4 TEL: 03(6461)1026 火～金曜日 14:00～17:00

茶話会のチラシ

事業の内容と実績

■ わっこ食堂 (子ども食堂・地域食堂)



わっこの家 わっこ食堂の様子

事業実績	実施回数	参加者数
昼のわっこ食堂	10回	125人
夜のわっこ食堂	10回	70人
交流会	10回	75人



わっこ食堂のメニュー ちらし寿司

■ わっこ食堂(子ども・地域食堂)

子どもも大人もみんなで楽しむ月2回の食堂と交流イベント

開催内容

昼のわっこ食堂 毎月第2土曜

時間 11:00~13:00

料金 大人300円 子ども200円

または わっこコイン1枚

夜のわっこ食堂 毎月最終木曜

時間 18:00~20:00

18:00開始と19:00開始の2部制

料金 大人300円 子ども200円

または わっこコイン1枚

地域交流会

昼の食堂後 13:00~15:00

一部有料200円またはわっコイン1枚

事業実績

・ わっこ食堂

昼の食堂は10回開催し125人の参加、夜のわっこ食堂も同様に10回開催し70人の参加があった。両食堂とも5月から開始し毎月実施できたが、参加者は昨年度の7割程度に減少した。近隣の小中学校で発生した新型コロナウイルス感染症のクラスターの影響が出たものと考えられる。

昼の食堂は子どもたちだけの利用が多く、友だち同士で誘い合わせて来たりしている。夜の食堂は近隣の高齢者の方やご家族での利用が多くを占める。

・ 交流会

昼の食堂の後に交流会を実施した。季節に合ったものづくりやイベント、子どもたちが考えたプログラムなどを実施した。

参加は小学生が中心だが、地域の大人やボランティアも参加して賑やかな交流の場



交流会の様子 ケーキ作り

となっていた。

食堂も交流会も参加には費用が必要になるが、利用者のほぼ全員がわっコインを利用して参加している。

日頃からわっこの家を利用している子どもたちや大人は、日々のお手伝い等を通じてわっコインを所持しており、それで食堂や交流会を楽しんでいる。

また、取得したコインで家族や友だちを誘ってくる子どもたちもいる。わっこの家には子どもたちのわっコインの貯金箱が集められたわっコイン銀行スペースもできた。

7月のわっこ食堂

メニューは 図書の分にはぎり

7月10日(土) 12:00~

わっこ食堂は、子どもから大人までどなたでも利用できる地域食堂です。

ごはん 1030分から、「わっこマーケット」をかいさいます！お昼ごはんをいただきます。

わっコインは、わっこの家で貯めたりするももるえんぴんおは！わっコインももていなくてもかいはるん！しよくめあつていせして、コインももるえん。

ごんかする人は、**7月8日(木)まで**よやくしてね。

お問い合わせ先：わっこの家 青山（特定非営利活動法人もりおかユースポート）
盛岡市青山三丁目29-4 TEL: 019-881-1026 火～金曜日 14:00～17:00

わっこ食堂のチラシ



交流会の様子 こども商店

事業の内容と実績



公共施設でのボランティアの様子



町内会の花の定植

■地域コイン(わっコイン)を活用した地域たすけあい事業

わっコインを媒介にニートやひきこもりの若者や登録ボランティアが高齢者等生活支援サービスや地域活動の補助を行った。

【わっコインの活用例】

- ①高齢者が子ども食堂のボランティア → 高齢者にわっコイン → 高齢者がわっコインで生活支援を依頼 → ひきこもりの若者にわっコイン → ひきこもりの若者がわっコインで食堂を利用
- ②子どもたちが居場所でお手伝い → 子どもたちにわっコイン → 子どもたちがわっコインで家族と一緒に子ども食堂で食事、わっ工作に参加・・・

事業実績

実施回数 74回 参加者数 108人

実施内容 高齢者宅のお掃除、庭の草取り、雪かき、地域のイベント補助、町内会の花植え、歴史的建造物の掃除、地域の清掃、草取りなど

実施回数、参加者数ともに昨年の1.5倍ほどの実績。地域包括支援センターからの紹介もあり、取り組みが浸透してきた。

■地域相談窓口

気軽に相談できる身近な地域の相談窓口。地域で相談相手のいない方、近しい人にはなかなか話しにくい相談に、身近な相談窓口を提供し、専門のスタッフが課題解決のお手伝いをする。

事業実績

実施回数 50回 利用者数延べ 72件

実人数 18人

新型コロナウイルス感染症の影響により、わっこの家の開所日数や来所者が少なくなったことに連動して、相談支援の利用者も減少した。

そのような中でも、ひきこもりの当事者やその家族の相談は継続的に行われていた。時間のかかる課題だけに今後も継続した取り組みを行いたい。



生活支援 高齢者宅での草刈り



生活支援 高齢者宅の除雪作業



わっこ食堂に来てくれた学生ボランティア

■地域サポートボランティアの育成

地域における子ども支援活動、高齢者生活支援、地域活動の担い手となるボランティアの養成を行う。また、ひきこもりの若者や独居高齢者等の参加を促し、地域へ包摂を目的とする。

内容

居場所や子ども食堂活動、生活支援活動のボランティアに関する説明会およびボランティア養成のための研修会

事業実績

コロナウイルス感染症対策のため説明会の開催は見送ったが、事業の紹介チラシやホームページ等による周知により、13人の新規ボランティアを受入れ、個別に説明対応を行った。有償・無償あわせて延べ254人のボランティアが参加してくれた。

その他の報告

青山地区自治会顔合せ会参加

1月15日、青山地区の自治会の集まりに参加しました。自治会の方々や、民生委員、地区の地域包括支援センター、地域の課題解決に関心のある団体や個人が集まって、地域の課題の把握や今後の取り組みについて意見交換を行いました。

たくさんのご寄付ありがとうございました。

わっこの家の活動にたくさんのご寄付をいただきました。

わっこの家の開設から6年目を迎え、地域の方たちの活動への理解も広まってきて、様々な場面でご寄付やお手伝いをいただく場面が増えてきています。

地域の方や企業・団体から過分な浄財や食材をご提供いただきました。



J Aいわて中央さんから食材のご寄付をいただきました。



いわて生協さんから食材のご寄付をいただきました。

事業の内容と実績

■わっこ冷蔵庫(コミュニティ・フリッジ)

2021年度のわっこの家の新たな取り組みとして、わっこ冷蔵庫(公共冷蔵庫、コミュニティ・フリッジ)の取り組みを行った。

企画当初は、平日の午後に冷蔵庫を開放する計画だったが、先行事例の取り組みや利用者の利便性を考慮し、公共冷蔵庫は24時間解放した方がいいだろうと考え、体制の準備を進めた。

そのため居場所スペースの安全性確保やセキュリティーの面で入り口玄関に前室を設けることを決定し、施錠も登録者に一時的なキーをスマートフォンのアプリやパスナンバーとして発行するシステムを採用し、24時間安心して利用できる体制を構築できた。

スマートフォン等の利用が困難な高齢者等については、専用のカードキーを発行するなどして対応した。

反面、入り口玄関の前室の工事や電子錠の設置、大型冷蔵庫の購入に当たっては、新型コロナウイルス感染症による世界的な物流の遅延や半導体不足の影響を受け、前室の工事や冷蔵庫の購入に想定以上の時間を要し、わっこ冷蔵庫の開始が大幅におくれることとなった。

現在は利用者にして、寄付者が少ない状態が続いており、需要と供給のバランスが取れず運営に苦慮しているが、北東北では初の取り組みであり、恒常的な公共冷蔵庫の設置も東北初ということで、数社のマスコミにも取り上げられたことから、報道をきっかけに、今後はより一層支援の循環が広がっていくよう期待している。



NPPO法人もりおかユースポート
コミュニティフリッジ
わっこ冷蔵庫

24hours everyday

コミュニティフリッジとは…

公共空間にある冷蔵庫から、いつでも好きな時に食品や日用品を受け取ることができる仕組みです。

- 24時間、食料を用意しています。
- どなたでも利用できます。
- 食品の寄付を募集しています。

NPPO法人
もりおか
ユースポート

わっこ冷蔵庫のチラシ



わっこ冷蔵庫の様子

実績のふり返り

1. 居場所と茶話会

コロナ禍により居場所、食堂ともに延べ利用者数は減少したものの、利用者実人数に大きな変化はなかった。右のグラフのとおり、利用の中心は小学生だが、大人の利用も少なくない。地域の高齢者や被災に関連して転居してきた方、コロナ禍で失職した方が居場所や食堂を利用してくれた。中高生については主に不登校の子ども達が日中活動の場として利用していた。わっこの家が地域の居場所として定着し、大人も子どもも継続して利用してもらえるようになってきている。

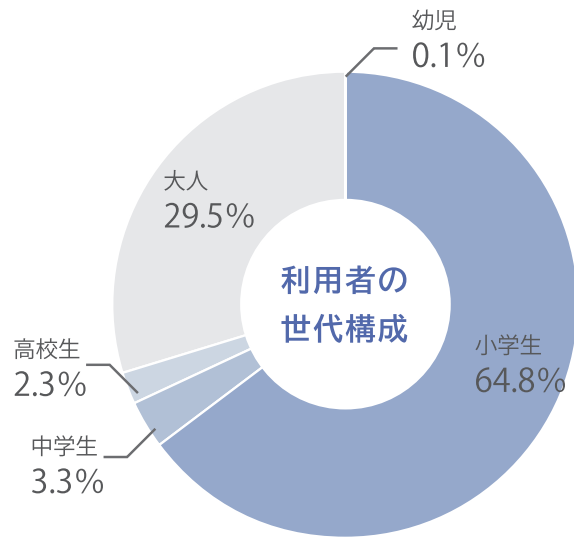
コロナ感染症の影響で茶話会の開催は難しかったが、災害公営住宅で住民や地域の方を交えて2回、開催できたことは大きな意義があったと考える。

2. 食堂と交流会

周囲の子ども食堂が、お弁当や食材の配布に内容を変更する中、地域のつながりづくりを目標にする食堂として食堂の活動を継続する判断をした。交流会は昨年に引き続き外部の講師や出演者を招くことができなかったが、子どもわっこ会議を開催し、子どもたちが主体的になって企画内容を考えて実施するイベント等を行い、内容を工夫した。



子どもわっこ会議の様子



3. 地域生活支援・地域のつながり作り

これまでの活動が評判となり、他地域の高齢者の生活支援を依頼されることも増え、活動の幅が広がってきた。地域活動はゴミ拾いや清掃活動は実施できたが、地域のイベントが行われず、地域と連携した活動は難しかった。

4. 困りごと相談

居場所を利用している子ども達や食堂に来た保護者、ひきこもりの当事者やその家族、求職者などから相談があった。居場所や食堂を利用の際にふと雑談のように話されるような相談も多く、それらの課題をくみ取り、適切な支援とつなぐのが難しい。

5. わっこ冷蔵庫

居場所と同じ施設で実施する上で、安全面から考慮したいことが想定以上にあり、開設が大きく遅れることとなった。一方で北東北初の試みということもあり注目を集めている。

わっこコイン (地域おかげさま通貨)

地域の奉仕の力と支援をつなぎ、地域の助け合いの循環を媒介するアイテムとしてのおかげさま通貨「わっこコイン」。地域の助け合い活動の活性化を図るとともに、子ども食堂等の利用の抵抗感を軽減することが目的で導入しました。

わっこの家の活動の手伝いや、地域活動のボランティア、高齢者支援等に参加した方に渡し、わっこ食堂や交流会、茶話会、生活支援サービスなどの利用の際に活用すると、無料または割引でサービスが利用できるアイテムです。



「わっこコイン」のデザイン



わっこコイン実物

アンケート結果

実施日：2022年3月

回答数：大人12件 子ども14件

大人のアンケートは、わっこの家の利用者や利用している子どもの保護者、地域住民、地域の関係機関の方から頂いた。

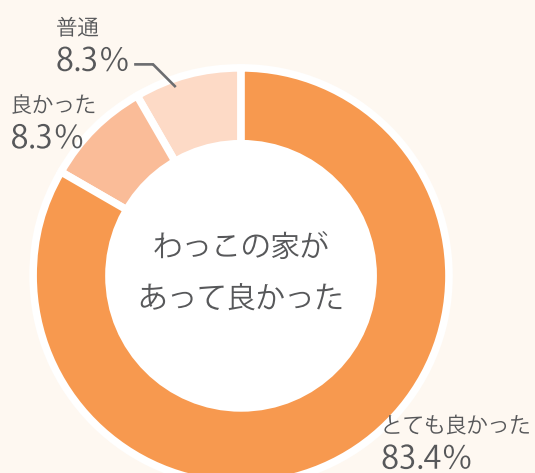
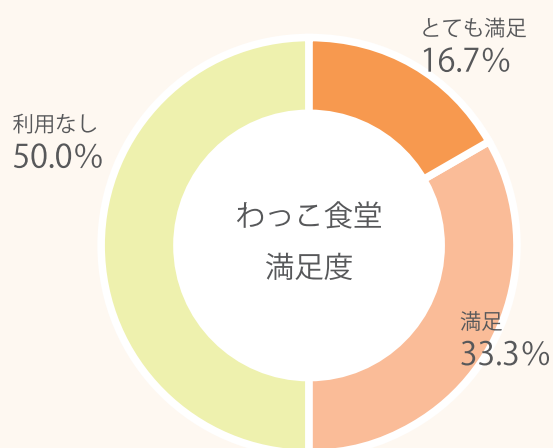
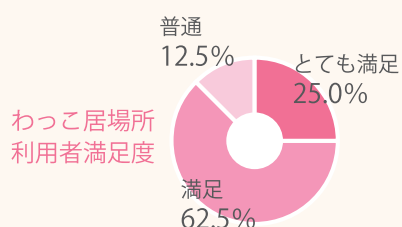
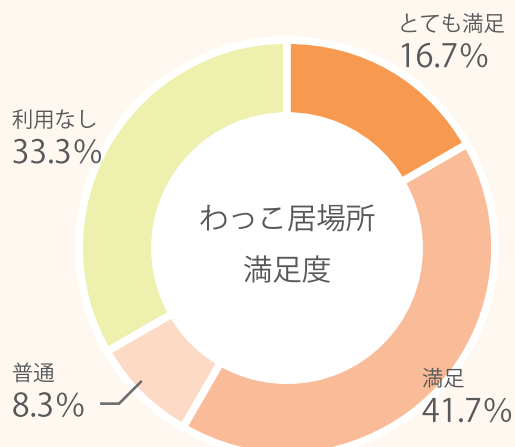
結果は左グラフのとおり。

回答をいただいた方のうち約7割の方が居場所を利用していた。全体としての満足度(「とても満足」+「満足」の割合)は58%だったが、利用者の満足度は88%と9割近い方が居場所に満足している結果となった。

わっこ食堂の利用者は回答者の5割で、利用した方の全員がわっこ食堂の利用に満足しているという回答があり、利用者の満足度は100%となった。

地域にわっこの家があってよかったと思っている方は9割を超え、アンケートの回答者のほとんどが、地域の中にわっこの家があってよかったと感じており、わっこの家の活動が評価されていることが確認できた。

自由記述欄には、たくさんの感謝の言葉や、活動への期待の言葉がよせられ、わっこの家の活動が地域の中で浸透し、今後も活動の継続が望まれていることを感じる事ができる結果となった。



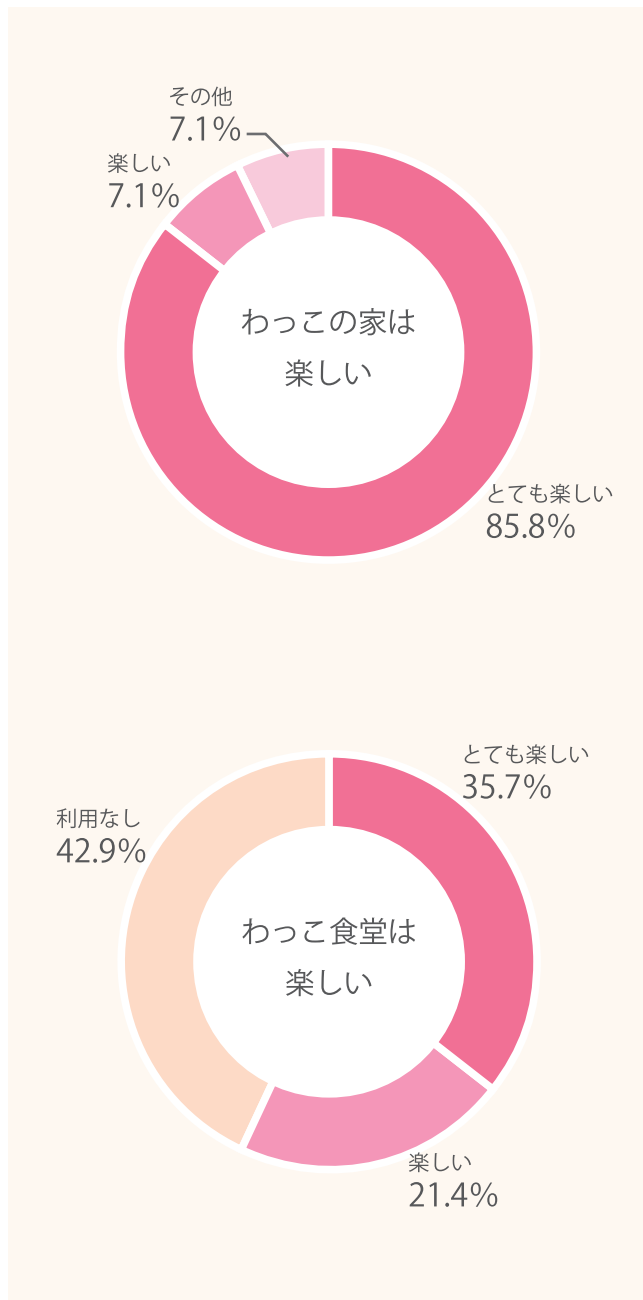
普段ひとり暮らしですので
来ると小さな子どもさんもいて
にぎやかでいいです



利用者・関係者の声

地域の人との交流の場。
私もいつかボランティア
で参加したい。

アンケート結果



子どもたちのアンケートは、わっこの家を利用している子どもたちのうち14人から回答をいただいた。

結果は左のグラフの通りとなった。

利用している子どもたちのうち9割以上の子どもが、わっこの家を楽しんでいると感じてくれていることがわかった。

わっこ食堂については回答者の6割の子どもたちが利用し、利用している子どもたち全員が、わっこ食堂を楽しんでいると利用していることがわかった。

子どもたちの自由記述欄には、おやつや食事、友だちとの交流、わっ工作などのプログラムが楽しいという感想が多く寄せられた。

その中でも、わっこの居場所が「落ち着いて過ごせる」との記述が6件あり、4割以上子どもが、わっこの家を家庭以外で落ち着いて過ごせる場所と感じてもらっていることがわかった。

また、他の利用者やスタッフ、ボランティアなど、普段触れ合うことのない人たちとの交流も楽しみにしているという回答も多く、わっこの家が子どもたちと地域がつながる場として機能してきていることもうかがえた。

毎月食堂や遊びの工夫もいろいろで子どもが楽しみにしています。食品の提供もとても助かります。



利用者・保護者の声

家にいると姉弟げんかばかりで居場所ができて助かってます

みんなでゆっくり楽しく遊べてスタッフさんもすごく優しく心が楽になれる。

わっコインで、ママやいろんな人と一緒に来られる。



子どもたちの声

今後の展望

情報発信と利用者・参加者・関わり手を広げる

居場所や食堂、生活支援などの利用者を増やすとともに、わっこの家の活動に関心のある方を増やし、潜在的な利用者・支え手を掘起し、活動のすそ野を広げ、わっこの家を拠点とした地域福祉の取り組みの継続・発展を図るため、住民や学生向けの事業説明会やボランティア養成講座の開催や、イベントやSNS等による情報発信を積極的に行うとともに、ボランティアなどの支え手の組織化を図るなど、助成金・補助金だけに頼らない運営体制を構築したいと思います。

支援と受援の見える化とコーディネート

自治会によるアンケート調査により、地域には、様々な困難を抱え支援を求めている人がいて、一方で困っている人がいたら手を貸したいと考える人も相当数いることがわかりました。しかし、どちらの当事者も潜在化していて、「聞かれたら」「頼まれたら」行動するという受動的な姿勢のため、実際にその力が発揮される機会はあまりないのが現状です。

今後、この支援力と受援のニーズを見える化するアイテムや「できること持ち寄りワークショップ」などの実施により顕在化させ、コーディネートすることで地域の共助の力を膨らませたいと考えています。

高齢者の生活支援について、今後どのように関わり、連携できるか、困っている方々に手を差しのべられるかを相談しながら進めたいと考えています。よろしくをお願いします。



地元自治会の方

近所に住んでいながらよく知らなかったが、もう少し皆さんに知ってもらったらと思います。月曜、土曜も開所していると、うれしいです。



地元利用者の方

事業継続に向けた取り組み

わっこの家の活動の目標は「地域の人たちの交流を図り、人々の関係の輪を広げ、地域福祉の向上に資すること」。これはポストコロナのこれからも変わりません。今後も感染症対策に取り組みながら、安定した事業の継続と利用しやすいサービスの提供のため、活動資金に広く寄付や協賛金を募るとともに、食事の提供や生活支援サービスの有料化と「わっコイン」による無償・割引の活動のバランスを取りながら経営の安定化を目指します。



「わっコイン」の可能性

地域の共助の取り組みで「誰もが担い手であり、受け手である」と言うのは理想の一つだと思います。わっこの家では自治会や地元商店街、地域包括支援センター等と連携し、地域のイベントや環境整備の取り組み、高齢者や子育て等のくらしのサポート等で「わっコイン」を利用出来るようし、利用範囲を拡大させることで、「わっコイン」が地域の自助・共助を循環させるアイテムとなる可能性があると考えています。

事業モデルの作成と展開

将来、社会全体の福祉の向上に寄与できるよう、定期的に事業の効果の測定を行い、より効果的で地域に貢献できる取り組みとなるよう、事業の見直しを行うとともに、わっこの家の活動のポイントをまとめ、他地域でも同様の取り組みが行えるように、事業モデルの作成、公開を目指します。

わっこの家サポーター募集中

子ども・地域よりあい広場 わっこの家の活動を支えていただけるサポーターさんを募集しています。地域にお住まいの方、大学生・高校生等でボランティア活動に興味のある方、子ども食堂や子どもの居場所、地域づくりの活動などに興味がある方、ぜひご参加ください。



わっこ食堂・交流会

毎月2回実施している、子ども食堂やその後の交流イベントのお手伝いを募集しています。

- お手伝いしてほしいこと
 - ・ 調理、会場設営の補助
 - ・ 参加者の話し相手
 - ・ 食堂のメニューの提供
 - ・ 交流イベント企画提案など



わっこ広場(居場所)

毎週、火曜から金曜日に開所しているわっこ広場では、放課後の子どもたちの交流、地域の茶話会などを開いています。

- お手伝いしてほしいこと
 - ・ 参加者との交流 ・ 体験活動補助
 - ・ 子どもの学習支援、話し相手
 - ・ 学習会、研修講師、企画提案など



地域支え合い事業

一人暮らしのお年寄りのサポートや地域のイベントのお手伝いなど、地域のくらしや交流のお手伝い。

- お手伝いしてほしいこと
 - ・ 高齢者生活支援の参加、補助、同行
 - ・ ボランティアサポーターの送迎
 - ・ 作業の技術指導など
 - ・ 行事、イベント参加の提案など



その他のサポート

わっこの家では様々な方面から活動をサポートしていただける方を募っています。

- お手伝いしてほしいこと
 - ・ わっこの活動の企画提案など
 - ・ 印刷物やホームページ等のデザイン
 - ・ 経理・税務など専門的支援
 - ・ 活動資金、物品の提供などの寄付

あなたの寄付が、わっこの家の活動のちからに

わっこの家の活動は民間の助成金や寄付金によって運営されています。食材や教材、機材などの物品や運営資金の寄付もお願いしています。

寄付受付
口座

特定非営利活動法人もりおかユースポート 【トクヒ）モリオカユースポート】
郵便振替口座 02230-0-140719 岩手銀行盛岡駅前支店 普通口座2088351

※ 郵便振替にてご寄付の際には、通信欄に「子ども」とご記入ください。子ども支援への寄付になります。

ー もりおかユースポートの活動 ー

若者支援



もりおか若者キャリアサポートセンター

もりおかユースポートが運営する、就労や自立に困難を抱える若者の自立を総合的に支援する若者支援の拠点

● もりおか若者サポートステーション

就労や自立に困難を抱える15歳～39歳の若者と40歳～49歳の就職氷河期世代の長期無業者を中心に就職の支援を行います。

通信制高校や中退や進路未決定で卒業が見込まれる生徒や学制の支援もしています。

■ **対象地域** 盛岡広域、久慈広域、二戸広域
花巻広域、北上広域、宮古広域、釜石広域

■ **支援内容** 履歴書指導、面接対策、キャリアカウンセリング、就労相談、就活支援、職場体験、ボランティア体験、出張相談、出張セミナー、カウンセリング、各種セミナーなど
様々なプログラムを実施して若者の就職支援を行っています。

地域若者サポートステーション事業は、厚生労働省が実施する岩手労働局の委託事業です。

● みやこ若者サポートステーション

みやこ若者サポートステーションは、もりおか若者サポートステーションが宮古市に設置する沿岸の若者の支援拠点です。

もりおか若者サポートステーション同様、若者と氷河期世代の方の就労支援を行っています。

● ミ・ポルトいわて

(岩手県社会的養護自立支援事業)

様々な理由で児童養護施設や里親の元で生活し、高校卒業を機に公的な支援から離れ、保護者や親族からのサポートなしに、一人で自立して社会人生活や進学を目指さなければならぬ子どもたちがいます。

そのような子たちを22歳までの間、生活や自立の支援、就労支援、就労継続支援、当事者の情報交換と交流の居場所、住居(シェアハウス)の提供などを行ってサポートしています。

ひきこもり支援



ひきこもり支援プラザ“ゆきわり”

ひきこもりや不登校等の当事者及びその家族を対象に、本人及び家族への相談支援、アウトリーチ(家庭訪問)、家族会、家族教室、居場所活動、ボランティア等の体験の支援を行っています。

ひきこもり支援者セミナーや各種講演会も企画・運営しています。

子ども支援

子ども・地域よりあい広場
「わっこの家」



子どもの居場所・子ども食堂活動を中心に、小学生の学習支援、地域住民対象の茶話会、郷土料理・手仕事などの体験会、高齢者の生活支援活動、地域のイベントのお手伝いなど、子どもと地域をつなぐ活動を行っています。



学びの広場TOMO
(盛岡市・滝沢市)

家の状況により学習の環境が整わない家庭の中学生を対象に、盛岡市と滝沢市の公民館等で定期的に学習の支援を行っています。

フリースクールもりさぼ



何らかの事情で通学することに困難のある子どもたちを対象に、個別で学習支援を行っています。ひとり一人が安心して自分のペースで学んだり、自立に向けたキャリアの学習のサポートも行います。

外出の機会をつくり、生活のリズムを整えるための居場所としても活用できます。

生活困窮者支援

盛岡市生活困窮者就労準備支援事業

盛岡くらしの相談支援室(盛岡市生活困窮者自立支援相談窓口)を利用されている方で、とくにきめ細やかな自立就労支援を必要とされる方に、キャリアカウンセリング、就労相談、就活支援、職場体験、ボランティア体験、各種セミナー等のプログラムを提供して就職支援を行っています。

中間的就労支援

生活困窮者就労準備支援事業の利用者等で、まとまった期間の体験活動が就労支援に有効と思われる方を対象に、就業体験、ボランティア体験、農業体験などを有償ボランティアとして提供しています。



特定非営利活動法人もりおかユースポート

もりおかユースポートは、若者の支援のために結成されたNPO法人です。岩手に若者が社会へ船出するための拠点を作りたい。そんな願いをこめて「若者の港」＝「ユースポート」と名付けました。

現在は若者支援をはじめ、ひきこもり支援、子ども支援、子どもの学習支援、生活困窮者支援、社会的養護支援など幅広い世代の支援を行っています。

連絡先
問合せ先

〒020-0034 盛岡市盛岡駅前通16-15保科済生堂ビル3階
TEL:019-613-3457 FAX:019-625-8461
E-mail:mail@my-port.jp ホームページ:http://my-port.jp



MAP

